



町屋地区でオクラ栽培

黒井 穰さん (70歳)



**オクラ栽培の始めた
きっかけを教えてください**

もともと稲作をしていましたが、JAが栽培を推奨していることや、ねばねばブームに乗って、栽培してみようと思いました。

**どんなオクラを栽培
していますか**

『アーリーファイブ』という品種を栽培しています。スーパリー等でよく見る品種で、切り口がきれいな星型になるのが特徴です。五泉のオクラ生産組合はこの品種のみを栽培しています。

奇抜な品種は魅力的ですが、収量が不安定だったりして、栽培を続けることが難しいです。一方、『アーリーファイブ』は、ほかの品種に比べ、安定した収量があり、栽培に適しています。



2L~3Lサイズは、ボールペンと同じくらいの大きさ

**オクラ栽培で大変な
ことを教えてください**

ヨトウムシが茎の中に入ってしまうと、オクラがダメになってしまうため、気を付けています。

また、オクラの実や葉に触れるだけで、手が荒れたり、かぶれたりするので、作業する時は、肌が露出しないようにゴム手袋やネット帽でしっかりと防護しなければなりません。収穫が終わる頃には、オクラに触れていたせいで指紋が無くなってしまうこともあります。

**オクラ栽培の魅力
を教えてください**

サルやカラスといった獣害がないので、防除作業の負担が少ないのがありがたいです。

また、他の野菜に比べてオクラは軽いので、収穫する時の労力が軽減できるのが魅力です。

昔は単価が安く、生産者が離れてしまう時期もありましたが、ねばねばブームの影響やオクラが健康に良いということが浸透してきたおかげで、安定して栽培できるようになってきています。



編集後記

「農福連携は生きがいです」と福祉事業所の若いスタッフ。担い手不足のなか、農福連携が広がっています。農家と各機関が連携し、生きがいという未来を織りなしていきます。

多忙な時季、どうぞ「農福連携」をご活用ください。農業に様々な方を受け入れていきましよう。

編集委員 渡辺 清滋